

若者向けファッション誌と 大人向けファッション誌における オノマトペの使用上の差異

赫 楊

1. はじめに

近年、オノマトペは日本語の研究者だけでなく一般の間でも注目されている。オノマトペは、文学作品、童話や漫画、歌謡曲の歌詞、商品名や料理のレシピ、さらにはスポーツなど、ある特定のジャンルに特有のオノマトペが偏在するのが、その特徴であり(石黒2014)、日本語の表現研究の興味深い対象の一つである。

本稿ではファッション誌を扱う。ファッション誌の場合、読者の年代差、男女差、発行時期の時代差などによって、その内部にオノマトペの偏りが見られる点に特徴がある。また、ファッション誌におけるオノマトペは、ファッションらしさの表現形成に大きな働きを有し、読者の購買意欲をそそる表現効果を発揮する。その意味で筆者は、ファッション誌のオノマトペを調査・分析することは有意義なことと考え、研究を進めている。本稿はそのうち、想定される読者の年代差による特徴を対象として研究を行う。

2. 先行研究の概観

日本語オノマトペの捉え方は代表的研究である田守(2002)に従い、ここではファッション誌を対象にしたオノマトペ研究に絞って紹介する。有力な先行研究は二つあり、一つは吉田(2008)、もう一

つはシティ・ハジャ(2014)である。

吉田(2008)は女性ファッション誌の『ラブベリー』と『セブentyーン』、男性ファッション誌『street Jack』と『GET ON!』各1冊の4冊を対象に調査を行い、男女による使用差という視点で、この4冊の雑誌から抽出したオノマトペの使用量の差、形態の差、後接用法の差の3点について検討している。

一方、シティ・ハジャ(2014)は『LEE』の5年分(計60号)の化粧品広告を対象に調査を行った。その結果、「A ッ B リ」型のオノマトペの使用率が最も高く、次いで「ABAB」型であること、また、そうした型のオノマトペを使用して化粧品の機能や効果などを消費者にわかりやすく伝えることが化粧品広告の望ましいあり方であることを論じている。

3. 調査

吉田(2008)、シティ・ハジャ(2014)とも萌芽的研究として重要であるが、限られたファッション誌しか扱われておらず、その選定の基準の説明が不十分である。そこで、本研究では、データがファッション誌という母集団の代表性を持つように扱う雑誌の種類と量を考え、女性ヤングファッション誌(若者向けファッション誌、以下ヤング誌)と女性アダルトファッション誌(大人向けファッショ

ン誌、以下アダルト誌)¹⁾のオノマトペ使用の特徴を客観的に測定するために、次のような調査設計を行った。

3.1 調査対象

本調査において、ヤング誌は『non-no』『MORE』『with』『ViVi』『JELLY』の2012年1月～12月計60冊(グループA)、アダルト誌は『VERY』『LEE』『STORY』『Domani』『Marisol』の2012年1月～12月計60冊(グループB)、合計120冊のデータを取ることにした。調査対象としたこの10誌は、それぞれ各ジャンルの発行部数ランキングの上位5位を占める²⁾。また、ヤング誌の上位5誌の合計発行部数とアダルト誌上位5誌の合計発行部数は、それぞれ各ジャンルの総発行部数の約4割と9割を占めており³⁾、一定の読者数と影響力を持っていると考えられる。

表現研究を考える場合、こうしたサンプリング法が厳密であることが求められる。なぜなら、ファッション誌で使われる表現は、その年代の読者が実際に使っている言葉ではなく、その年代の読者が使っているであろうとファッション誌製作者が想定する表現だからである。しかし、サンプリング作業を厳密にすれば、少なくともその年代の読者が求め、支持している表現を、間接的かつ近似的にであるが、反映させることが可能になる。

3.2 調査方法

ファッション雑誌の構成を考えると、概略、ファッション、ビューティー、ライフスタイル、その他の四つのページに分かれる。本研究ではそのうち、ファッションのページのみを扱う。

グループAはファッションのページ総数が8351ページであり、グループBは8046ページである。それぞれ10%の抽出率でランダムサンプリングを行い、835ページと804ページを得た。

そこから、抽出したサンプルのページに現れるオノマトペあるいはオノマトペを作る語基が含まれている言葉(以下、オノマトペ語と総称する)を抜き出し、文単位でデータベースを作った。これがそれぞれ、データAとデータBである。

3.3 対象にするオノマトペの判定基準

オノマトペであるかどうかを判断する際に、収録語の多いオノマトペ辞典2冊を参照した。すなわち小野編(2007)と山口編(2003)である。この2冊に載っている言葉をオノマトペ語と判定した。

しかしオノマトペ辞典を基準とした場合の問題点は二つあり、ファッション誌は新語が多いため、一つの辞典のみに載っている言葉、あるいは両方とも載っていない言葉もあり得るという点の一つ、もう一つは、辞典に記載されたオノマトペの語基の派生形すべてを考察の対象とした場合、日本語母語話者の直感に合わないことが出てくるという点である。

そこで、アンケート調査を実施することにした。アンケートでは、一つの辞書にしか収録されていない、あるいは両方とも収録されていないが、オノマトペの可能性があると筆者が判断する言葉を例文と共に提示し、日本語を母語とする日本語教育専攻の大学院(修了)生5名に判断してもらった。

例えば、「【きっ】と」は、小野編(2007)に載っているが、副詞としての用法が定

着しており、母語話者にとってオノマトペだという認識が非常に薄く、オノマトペと判断できなかった。また、【ゆる】の一部の用例では、形容詞「ゆるい」が連想されるため、オノマトペの語基と認識しにくい場合もある。今回のアンケート調査で言えば、「【ゆる】+名詞」(例えば「【ゆる】ボトムス」)の【ゆる】はオノマトペ語基ではない一方、「【ゆる】+形容詞・形容詞の一部」(例えば「【ゆる】可愛い」)の【ゆる】はオノマトペ語基であるという結果が出た。

4. 結果分析と考察

4.1 オノマトペ語の使用回数

調査結果によると、835ページのヤング誌にはオノマトペ語が1768回、804ページのアダルト誌には1361回用いられている。ヤング誌の使用回数はアダルト誌の使用回数を少し上回っているようだが、さほど大きな差はなかった。

ヤング誌とアダルト誌それぞれのオノマトペ語を具体的にみる。本研究では、同じ語基で作られたオノマトペ語の語彙群を「【語基】系」と呼ぶ。例えば、「ちょっぴりレトロなデザイン」や「ちょこっとガーリー」「ちょい厳しめ」の【ちょっぴり】【ちょこっ】【ちょい】を「【ちょっ】系」と一括する。「ばっちり」のように一形態しかないオノマトペ語は「【ばっちり】」と表示する。

オノマトペ語の使用回数が第1位から第10位までのランキングは表1の通りである。

1位～5位までは、多用されるオノマトペ語は同じであり、順位が異なるだけである。一方、6位から10位までは、や

表1 オノマトペ語の使用回数ベスト10

	ヤング誌	アダルト誌
1	【ちょっ】系 (187回)	【きちん】系 (192回)
2	【ふわ】系 (126回)	【びた】系 (96回)
3	【すっきり】 (97回)	【ふわ】系 (90回)
4	【びた】系 (93回)	【すっきり】 (83回)
5	【きちん】系 (79回)	【ちょっ】系 (51)
6	【ゆる】系 (73回)	【ざく】系 (50回)
7	【たっぷり】 (72回)	【さら】系 (45回)
8	【きら】系 (56回)	【ゆったり】 (45回)
9	【ちら】系 (50回)	【しっかり】 (41回)
10	【さら】系 (50回)	【たっぷり】 (40回)

や違いも見られる。表1からは、ヤング誌でもアダルト誌でも、多く使われそうなオノマトペ語はさほど変わらないことがわかる。つまり、ファッション雑誌に好まれるオノマトペ語は年代差による使用回数上の差異はあまりない。

しかし、やはり表現しようとする内容や出そうとする雰囲気が違うために、多用されるものは順位が異なる。特に目立つのが【ちょっ】系と【きちん】系の差異である。ヤング誌の1位は【ちょっ】系で5位は【きちん】系であるのに対し、アダルト誌はちょうど逆になっている。

これを具体例で見ると、ヤング誌では、

例1 【ちょこっ】とスポーツBOOMがきた!! (『ViVi』2012/3/p77)

例2 ラメタイトを合わせて、【ちょい】ロックに着こなして。(『ViVi』2012/9/p90)

例3 シャキっとしたシャツで【ちょっぴり】きれいなめを意識(『More』2012/3/p45)

のように、活気溢れるリズムで「少し」を意味する言葉として【ちょっ】系のオノマトペ語が多用されている。

一方、アダルト誌は、

例4 落ち着いたモノトーンのツイードだから、【きちん】と感は十分です。(『VERY』2012/3/p125)

例5 清潔感があって、カジュアルでも【きちん】と見えるネイビーの服は、VERY世代の強い味方。(『VERY』2012/5/p134)

のように、落ち着いた大人の女性像を描くのに【きちん】系が多く使われている点に両者の相違が見られる。

また、表1の6位から10位まで見てみると、ヤング誌は【ゆる】系や【きら】系、【ちら】系を好むのに対して、アダルト誌は【ゆったり】や【しっかり】を好むことがわかる。それは、ヤング誌とアダルト誌の描く女性像の違いに繋がるかもしれない。具体的に見てみると、ヤング誌の【きら】系は、56例のうち43例が、ファッションにアクセントをつけるためのワンポイントを描くものであり、また【ちら】系は、50例のうち49例が、肌やインナー、アクセサリなど背後にある隠れた部分を「チラ見せ」するに使われている。20代の女性は、「ゆるかわいい」イメージを求め、「きらきら」したものを身につけ、何かを「チラ見せ」するワンポイント重視のファッション観が想像できるだろう。これに対して30代の女性は、より品のある「ゆったり」とするファッションで「しっかり」した上質のイメージを表現しようとしていると推測できるだろう。例えば、表1にランクインしなかったアダルト誌の【ゆる】系も見てみると、37回の使用回

数であり、ヤング誌の73回よりかなり少なくなっている。つまり、読者の年代に対するイメージの違いがファッション誌の言葉遣いに反映されているということである。

さらに10位以降を見てみると、ヤング誌にだけ出現したオノマトペ語の種類は明らかにアダルト誌より多い。それは次の表2にまとめる。

表2 ヤング誌にだけ出現したオノマトペ語とアダルト誌にだけ出現したオノマトペ語

行	ヤング誌	アダルト誌
あ	【うふふ】系【うる】系【お】系	
か	【ぎょっ】系【ぎり】系【こつてり】系【ぎざ】系【きめ】系【ごちゃ】系	【がっかり】系【くしゃ】系【ごじ】系
さ	【じゃら】系【しゅっ】系【じわ】系【そっくり】系【さん】系【じゃん】系【ずっしり】系【そわ】系	【ずぼ】系
た	【どし】系【たぶん】系【ちゃっかり】系【つつつてん】系【つつん】系【てっとり】系【てきばき】系【とほほ】系	【でっぱり】系【どっしり】系【とことん】系
な	【にや】系【のっぴり】系【のっぺり】系	【のらりくらり】系【ぬく】系
は	【ぼっきり】系【ぼっくり】系【ぼり】系【びか】系【ぶっくり】系【ぶり】系【ぼっくり】系【ぼん】系【ぼんやり】系【ぼさ】系【はんなり】系【びっ】系【びびっ】系【びん】系【ふむ】系【ぶつ】系【ぼーっ】系【ぼつ】系【ぼや】系	【ばた】系【ぼり】系【ぶよ】系【ぼてり】系【はつらつ】系【ばつ】系【ばた】系
ま	【まったり】系【めちゃ】系【もや】系【めじ】系【もた】系	【めろ】系
や	【ゆら】系	【ゆったり】系
ら	【るん】系	

使用回数は1回のもものがほとんどだが、アダルト誌と比べてヤング誌は、豊富な表現を使うことにより、これまでにない新鮮な印象を出そうという工夫が見られる。そうしたバリエーション豊かな新鮮な表現で賑やかさを生み出し、活発なイメージを作ろうとしている様子が垣間見えるだろう。

4.2 オノマトペ語の描写対象

使用回数は変わらないが、用法面で差異のあるオノマトペ語もある。表2に出ている【ふわ】系のオノマトペ語を例にして分析を試みる。

【ふわ】系のオノマトペ語は、ヤング誌の126回の使用回数と比べてアダルト誌は90回の使用回数であり、大きな違いは見られない。ところが、【ふわ】系の用法を見てみると、【ふわ】系の描写対象による使用回数の差に有意差が見られた。

表3を参考に説明すると、【ふわ】系のオノマトペ語の描写対象は、洋服や小物の形・素材と雰囲気・色の二種類がある。この二種類にイェーツの補正のある χ 二乗検定をかけたところ、 $\chi^2=7.770$ であり、0.1%水準で有意であった。

表3 ヤング誌とアダルト誌の【ふわ】系のオノマトペ語

	形・素材	雰囲気・色
ヤング誌	108回	18回
アダルト誌	88回	2回

形・素材が描写対象である【ふわ】系のオノマトペ語は、

例6【ふわっ】と広がるラインとフロントのフリルが本当にキュート。(『non-no』2012/6/p109)

例7【ふわふわ】のはき心地。(『non-no』2012/1/p112)

のように可視・可感の【ふわ】である。その一方、

例8 【ふんわり】可愛いカジュアルミックスコーデを楽しめるお店です♪(『non-no』2012/5/p105)

例9 全身白とか、【ふわっ】とした色を元気系のコが着るとすごく可愛いと思います!(『ViVi』2012/5/p117)

のように、雰囲気・色が描写対象である【ふわ】系のオノマトペ語は、抽象的なイメージを描写する【ふわ】である。ということは、今回の調査結果によると、アダルト誌に使われる【ふわ】系のオノマトペ語はほとんど形・素材を描写する、つまり可視・可感の【ふわ】である。それに対して、ヤング誌は雰囲気や色の描写にも【ふわ】系のオノマトペ語を使っている。これは、「ふわ可愛い」というイメージが、昨今の若者女子のモデルとも合う結果である。これに対して、大人の女性の理想像といえば「ふわ可愛い」と正反対の「落ち着いた」女性である⁴⁾。つまり、大人の女性は「【ふわふわ】するような可愛さ」を求めているので、雰囲気・色を描写する【ふわ】系のオノマトペ語はほとんど使われない。それは【ふわ】系のオノマトペ語の使用回数の差にも影響していると考えられる。

4.3 オノマトペ語の形態

田守(1993)はオノマトペの形態をCV、CVQ、CVN、CVV、CVVQ、CVVN、CVQ-CVQ、CVN-CVN、CVV-CVV、CVCV、CVCVQ、CVCVri、CVCVN、CVQCV、CVNCV、CVQCVri、CVNCVri、

CVCV2、CVCVri2、CVCVN2、CVCV2 の変種、特殊の形態の計22種類にまとめた⁵⁾。

今回の調査から見て、CVCVN以外、ヤング誌とアダルト誌は各形態のオノマトペ語の出現率に大きい差はなかった。使かわれた形態の種類もほぼ重なっている。最も多用されるのは、両誌ともCVQCVriの形態であり、それぞれ全体のオノマトペ語の33.6%と36.9%を占めている。CVCVNについては、アダルト誌のCVCVNはほとんど【きちん】系で、ヤング誌よりかなり多い。ゆえに、アダルト誌のCVCVNはヤング誌の2倍である。

もう一つ大きい差が見られたのは、田守(1993)の分類にはなかった、オノマトペの語基を使って新しい言葉を作る用

表4 ヤング誌とアダルト誌の形態の比較

形態	ヤング回数	アダルト回数	ヤング出現率	アダルト出現率
CV	1	4		
CVQ	125	108	7.1%	7.9%
CVN	43	15	2.4%	1.1%
CVV	0	1		
CVVQ	5	1		
CVVN	1	1		
CVN-CVN	14	4		
CVCVQ	188	119	10.6%	8.7%
CVCVri	80	77	4.5%	5.7%
CVCVN	101	203	5.7%	14.9%
CVQCV	3	0		
CVQCVri	594	502	33.6%	36.9%
CVNVCri	81	90	4.6%	6.6%
CVCV2	151	76	8.5%	5.6%
CVCV2の変種	6	2		
CVCVri2の変種	0	1		
特殊の形態	44	39	2.5%	2.9%
特殊の使い方(新)	331	118	18.7%	8.7%

法の類である。筆者はそれを特殊の使い方と名付け、表4に入れた。

ヤング誌には、この類のオノマトペ語は18.7%もあり、それに対して、アダルト誌には8.7%しかない。この特殊の使い方(新)に χ^2 二乗検定をかけたところ、 $\chi^2=47.284$ であり、0.1%水準で有意であった。

この特殊な使い方を具体的に分析すると、いくつかの造語ルールが見られた。

①オノマトペの語基+名詞(あるいは名詞の一部)=ファッション専門名詞

例10 ハイウエストの【ピタ】ボトムで脚長効果もゲット!! (『JELLY』2012/12/p74)

例11 キレイ色ニット×花柄の【ふわ】スカはアイドルOLの鉄板(『with』2012/4/p126)

②オノマトペAの語基+オノマトペBの語基=新しい語

例12 大好きピンクも、【ふわ】【もこ】で女子力倍増。(『with』2012/3/p55)

③オノマトペの語基+形容詞(あるいは形容詞の一部)=新しい形容詞

例13 デートだったらこんな【ゆる】スイートな感じが♡(『non-no』2012/3/p113)

例14 素材やデザインを【ちょこ】スポにするのが古く見えないカギ。(『ViVi』2012/3/p82)

④オノマトペの語基+動詞の一部=新しいサ変動詞

例15 ゴールドページのダウンジャケットは、内側のピンクを【ちら】見せしてコーデにインパクトをプラス。(『non-no』2012/12/p141)

⑤単独で使う

例16 お好みは【ゆる】・【びた】・【ふわっ】!! (『ViVi』2012/5/p119)

例17 きちんと系アイテムでありながら、“【ピタ】”でも“【ダボ】”でもない絶妙なサイズ感が、こなれた印象を強めてくれる。(『Domani』2012/8/p87)

①「オノマトペの語基+名詞=ファッション専門名詞」という造語ルールは田守とスコウラップ(1999)による、オノマトペの名詞への派生—複合名詞を作る用法でもある。この用法は、ファッション誌では使う頻度も使う範囲も日常より拡大されている。また、この用法により作られた複合名詞はファッションに密接する、一種の専門語を形成している。

また、④「オノマトペの語基+動詞の一部=新しいサ変動詞」という用法については、例えば「チラ見せ」や「ちょい足し」などの組み合わせは日常生活でもしばしば耳にするものである。

斬新なのは、②「オノマトペAの語基+オノマトペBの語基=新しい語」と③「オノマトペの語基+形容詞(あるいは形容詞の一部)=新しい形容詞」と⑤「単独で使う」の用法である。先行研究でもあまり指摘がなく、日常的な言葉でもない。この三つの用法は、ファッション誌で生産性が高く、ファッション誌を中心に広まり、定着している可能性も考えられる。

以上の5種類の特殊の使い方は、ファッション誌の表現を彷彿させる。アダルト誌と比べてヤング誌のほうがこの特殊の使い方を好むという傾向がわかった。

表5 ヤング誌とアダルト誌の表記の比較

	ヤング誌	アダルト誌
ひらがな	1298(73.4%)	1085(79.7%)
カタカナ	453(25.6%)	275(20.2%)
ひらがなとカタカナの混用	9(0.6%)	1(0.1%)
アルファベット	4(0.2%)	0(0)
符号混じり	4(0.2%)	0(0)

4.4 オノマトペ語の表記

表記は、表5でその結果を示す。

表5を見てわかるのは、ヤング誌でもアダルト誌でも、最も基本的な表記はひらがなであり、それぞれ73.4%と79.7%の比率で使われている。カタカナは、ヤング誌はアダルト誌より5.4%多く、やや偏りが見られた。ひらがなとカタカナの混用はヤング誌が9回であり、アダルト誌は1回しかなかった。また、アルファベットと符号混じりのオノマトペ語はヤング誌には出現しているのだがアダルト誌には出現していない。

自然な表記で書かれた漢字かな交じり文に点在する非外来語のカタカナ表記には、強調の働きがあると考えられる(中山1998等)。カタカナの頻用とアルファベットや符号混じり表記の使用は、強調する目的もあり、視覚的により変化が富む文章にしようとする意図もあるだろう。例えば、

例18 【がつつり】あきじゃなくて、ほどよくあいているものを選ぶのが品を保つ秘訣のようです。(『ViVi』2012/5/p117)

例19 前は首までつままって露出が少ないのに、後ろは【ガッツリ】あいてるっていうのがおしゃたんテクのある優秀ワンピ。(『ViVi』2012/4/p151)

の二つの【がつつり】を見てみると、例19のカタカナの【ガッツリ】のほうが、「がつつり度」が上がっているような気になる。文脈でも、例18は【がつつり】あきじゃなくてほどよくというスタイルを提唱しているのに対して、例19は後ろが【ガッツリ】あいていたほうがオシャレだと言っている。このカタカナの使用は、【がつつり】の度合いを上げる効果があると思われる。

次に、ヤング誌に多いひらがなとカタカナの混用と、アダルト誌に存在していないアルファベットや符合混じりの表記の例も見てみる。

例20【テロっ】と感のある素材で、きれいな着こなしにも対応します。(『with』2012/11/p110)

例21 この秋冬から、注目の大人気ブランドが続々【ufufu】girls♡の仲間入り!! (『ViVi』2012/12/p264)

例22 資料を眺めても頭は働かず【ぼ〜っ】と過ごすこと3時間 (『MORE』2012/11/p60)

例23 トップスは背中がレース素材になっていて、JKを脱いだ時に【ドキッ♡】とさせそう。(『ViVi』2012/10/p260)

以上の例の示す通り、カタカナの使用も、符号の使用も、単調な文章を豊かに見せてくれる有効な手段となっている。ヤング誌は、写真や絵だけでなく、文字にも視覚的な活発さとインパクトを追求している。それに対してアダルト誌は、標準的な表現を基調にした文章を作っており、穏やかでゆっくり綴るようなイメージとなっている。

4.5 オノマトペ語の文末表現

文末表現については、文学作品や新聞記事には「体言止め」という表現手法が見られる。余韻を残したり、文全体のリズムを整えたりする効果がある。インパクトを与えて強調する効果や字数を縮めて事実を伝える効果も発揮している。

ファッション雑誌の文を見てみると、主語も述語も欠かさない完成した形で終わる文もあったり、オノマトペ語で終わるのもあったりする。オノマトペ語、あるいはオノマトペの直後に使われる「と」「に」で終わる文は、ヤング誌では133文(7.5%)であり、アダルト誌では70文(5.1%)である。ヤング誌のほうが多かった。 χ^2 二乗検定をかけ、 $\chi^2=5.958$ との結果であり、有意差が見られた(0.1%水準で有意である)。以下、例を挙げる。

例24 リッチで可愛くて、春に【ぴったり】! (『MORE』2012/3/p36)

例25 シンプルなルックスに「b.」ロゴを【そっ】と♡ (『MORE』2012/5/p155)

例26 シルエットは女の子らしく“ゆる【ふわ】”に。(『non-no』2012/3/p199)

先行研究の少ない「オノマトペ語で文が終わる」については石黒(2007)が挙げられる。石黒(2007)はそれを点描文体の手法の一つであると述べており、文章に緩急をつける効果や読者にダイレクトに届く効果、余韻が生じる効果、文連続に勢いが出る効果、写真や絵と補いあう効果などがあると指摘している。

本調査でも、オノマトペ語を文彩として最後に置き、強調したいオノマトペ語に重量感を与えることによって、文章に

アクセントを加える効果があることを示している。また、最後まできちんと言い終える文より、短くて躍動感のあるリズムの醍醐味も味わえる。雑誌の紙面上のことを考えても、限られているスペースに最大限に情報を詰めるためにも、最後まで言わずに、オノマトペ語で終わる文が必要とされる。

今回の調査で得られた、オノマトペ語、またはオノマトペ語+「と」「に」で終わる文がヤング誌に多かったという結果は、ヤング誌とアダルト誌におけるこうした手法に差が見られることを示している。これには三つの理由が考えられる。

まず、ヤング誌は活発な雰囲気を作るためにリズム感を重視するという。次に、ヤング誌は文末に置かれるオノマトペ語の視覚的インパクトをより強調する傾向があること。そして、ヤング誌は情報を大量に詰め込む、アダルト誌は情報を適量に伝える、という傾向があるため、ヤング誌のほうは字数を惜しむので最後まで言わずにオノマトペ語で終わる文末表現を好むことである。

5. 終わりに

最後に本調査の結果を簡潔にまとめる。

ヤング誌とアダルト誌のオノマトペ語の使用回数の差はさほど大きくなかった。特に、多く使われているオノマトペ語は重なっているものが多い。

一方、具体的な内容の違いや雰囲気作りのために多用されるものは順位も異なり、一方の雑誌にだけ出現したオノマトペ語の種類もヤング誌のほうがアダルト誌より多い。

また、オノマトペ語は、使用回数が同等でも用法面で差異のあるものがあり、描写対象によっても使用傾向は変化する。

さらに、ヤング誌とアダルト誌に出現したオノマトペ語は形態面でもそれぞれ特徴を持っている。ヤング誌は、ファッション誌特有の形態のオノマトペ語を選択するのにに対し、アダルト誌はより伝統的で安定したオノマトペ語の形態を好む傾向が見られた。

表記では、ヤング誌のほうがカタカナ表記を好み、「ひらがなとカタカナの混用」「アルファベット」「符号混じり」が多かった。ヤング誌は、文字の視覚的なインパクトを追求する傾向にあり、カタカナや符号混じりのオノマトペ語を、誌面を賑やかに見せる手段として使っている。相対的に標準的な表記に従うことで落ち着いた雰囲気を見せるアダルト誌とは対照的である。

最後に、文末表現は、ヤング誌はアダルト誌より、オノマトペ語、あるいはオノマトペ語+「と」「に」で終わる文が多かった。ヤング誌はリズム感を重視し、字数を節約して情報を詰め込もうとする傾向があるからだと考えられる。

今回の調査により、ヤング誌とアダルト誌で使用されるオノマトペ語の特徴はある程度解明できた。分析の対象とした使用回数・使用感、描写対象、形態、表記、文末表現における差異は、ヤング誌とアダルト誌が思い描く読者像が異なり、その読者像に沿って言葉遣いも変化するという特徴を示している。

今後は、コーパスのデータをさらに充実させ、年代差という角度だけではなく、

男女差、時代差などの角度から研究を進めていくことを目指したい。

注

- 1) 本研究における年齢層によるファッション誌の分類は、ティーンズ誌(10代前半)、ヤング誌(10代後半～20代)、アダルト誌(30代～40代)、シニア誌(50代以上)の4種類とする。
- 2) 発行部数はすべて「日本雑誌協会」(<http://www.j-magazine.or.jp/>)の調査データに基づく。ファッション雑誌というジャンルかどうかは「ファッション雑誌ガイド Fashion Magazine」(<http://www.magazine-data.com/>)を基準にする。
- 3) 2012年1月～3月のデータに基づく。
- 4) ある大手出版社のアダルト誌の編集者に直接取材を行い、大人の女性の理想像についてご教示いただいた。
- 5) Cは子音、Vは母音、Qは促音、Nは撥音をそれぞれ意味する。

参考文献

- 天沼寧(1974)『擬音語・擬態語事典』東京堂出版
- 石黒圭(2007)『よくわかる文章表現の技術V 文体編』明治書院
- 石黒圭(2014)「感度を高める言葉の教育(7) 留学生はオノマトペが苦手」『指導と評価』60-10、図書文化社
- 小野正弘編(2007)『日本語オノマトペ辞典：擬音語・擬態語4500』小学館
- 金田一春彦、浅野鶴子編(1978)『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- シティ・ハジャ、アブドウル・ラザック(2014)「ファッション雑誌の化粧品広

- 告におけるオノマトペについて」『人間文化創成科学論叢』16、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
- 田守育啓(1991)『日本語オノマトペの研究』神戸商科大学経済研究所
- 田守育啓(1993)「日本語オノマトペの音韻・形態的特徴」『言語』22、大修館書店
- 田守育啓(2002)『もっと知りたい! 日本語オノマトペ 擬音・擬態語をたのしむ』岩波書店
- 田守育啓、ローレンス・スコウラップ(1999)『日英語対照研究シリーズ6 オノマトペ 形態と意味』くろしお出版
- 中山恵利子(1998)「非外来語の片仮名表記」『日本語教育』96、pp.61-72
- 山口仲美編(2003)『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』講談社
- 吉田麻衣子(2008)「男女差の視点から見た日本語オノマトペー雑誌における検証」『東アジア日本語教育・日本文化研究』11、東アジア日本語教育・日本文化研究学会

付記

本稿は、2015年1月24日表現学会東京例会での研究発表「若者向けファッション誌と大人向けファッション誌におけるオノマトペの使用上の差異」を基にしたものです。当日適切なご指導をくださった皆様に深く感謝申し上げます。

(一橋大学大学院)